



水辺の都市を読む
 ～舟運で栄えた港町～
 編著者：陣内秀信・岡本哲志
 発行・発売：法政大学出版社
 定価：本体4,900円＋税

陣内秀信・岡本哲志

『水辺から都市を読む～舟運で栄えた港町～』 発刊

『水の文化』創刊時より適時連載・好評を博してきた「舟運から都市の水の文化を読む」が法政大学出版社から刊行されました。1997年より継続してきた五年間の活動結果の集大成となっています。

訪れた都市は数知れず。日本の佐原に始まり、大阪、足羽川、最上川流域、瀬戸内海、伊勢湾などを起点に、中国・蘇州、タイ・バンコク、オランダ・アムステルダム、イタリア・ヴェネツィア……。舟運によって発展した都市を訪れ、徹底したフィールド調査を通して、往時の都市の構造、その豊かなネットワーク、今に続く活気にあふれた人びとの暮らしの営みなどを重層的に明らかにしています。「心地よい都市の水辺」作りの解説書としてきわめて現代的な読み方ができる必読書となっています。

目次より

第一部 ヨーロッパ編 水が彩る交易都市

オランダの港町 ホールン、アムステルダム イタリアの港町 ヴェネツィア、ブラーノ島、キオッジア、トレヴィーゾとシレーレ川

第二部 アジア編 現代に生きる水の都

中国・江南の水郷都市 蘇州、江南の運河を巡る、周庄、同里
 タイ・バンコクの水辺空間 バンコクの水文化を探る、元チャオプラヤ川を巡る、百年前に開削された運河を行く、バンコク水の都の城郭都市

第三部 日本編 埋もれた魅力の再発見

瀬戸内海の港町 庵治、尾道、鮎崎、御手洗、鞆、笠島、下津井、牛窓、柳井、伊勢湾の港町 大湊、神社、伊勢湾横断クルージング、内海、大井、亀崎、半田、他

水の文化
 Information

ミツカン水の文化
 交流フォーラム
 2002

～もしも蛇口が止まったら～
 開催のお知らせ

みなさん。もしも蛇口から水が出なくなったらどうしますか。こんな疑問を出発点に、地域で利用できる水はどこにあるのか？ その利用法は？ もしもに備え日頃からどのように水と関わるとよいのか？ 様々な疑問をみんなで考えてみよう、当センターでは『水の文化交流フォーラム』を開催します。

日時：10月29日（火）
 17時30分～21時（予定）

会場：江戸東京博物館ホール（1階）
 東京都墨田区横網1-4-1
 地下鉄都営大江戸線「両国」駅A3出口より徒歩1分
 JR総武線両国駅西口より徒歩3分

『水の文化』に関する情報を
 お寄せ下さい

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介してまいります。

- ・ユニークな水の文化学習活動を行っている。
- ・「水の文化」に関わる地域に根差した調査や研究を行っている。

こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せ下さい。

水の文化12号予告

特集「水道の文化」

くらしと水を直結するのが水道です。
水道の普及によりわたしたちの考え方や
行動はどのように変わったのでしょうか。
水道が普及する前は、
どのように水を管理していたのでしょうか。



水の文化 バックナンバーを ホームページで

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

本誌はモノクロでみなさまに配布しておりますが、写真をはっきり見たい!というご要望にお応えしホームページではカラーでバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用下さい。



編集後記

本誌も発行丸3年を経て、今回誌面をリニューアルしました。創刊号から10号まで「水の文化とは何だろう」と編集部も手探りで進めて参りましたが、それ以上に社会の動きは早く、「水の文化」の意味を一から説明する必要もなくなってきました。この間、読者のみなさまからも数々の応援をいただきました。今後、みなさまの忌憚のないご意見・アドバイスをお待ちしております。(編集部一同)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第11号

禁無断転載複写

発行日
発行

お問い合わせ

2002年(平成14年)8月

ミツカン水の文化センター

〒475-8585 愛知県半田市中村町2-6

株式会社ミツカングループ本社 広報室内

Tel. 0569(24)5087

ミツカン水の文化センター 東京事務局

〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F

Tel.03(5762)0244 Fax.03(5762)0246